



リステラス星圏史略
古資料ファイル
6 - 1



《 ングサインスカ 》
～初期帝国の成立～

(発掘作業中)

霧樹里守 is 土岐真扉

(草稿 & 没原稿)

(草稿 & 没原稿)

惑星
リスタルラーナ
史略概論

1. 先史文明 2. 移民船...みおや（母霊）の贈り物。

[惑星リスタルラーナ史略概論（1990.11.20.）](#)

2017年2月23日 [リステラス星圏史略（創作）](#)

惑星リスタルラーナ史略概論

1990.11.20.

惑星リスタルラーナは、銀河系第三腕、外縁部よりに位置する、____型恒星ラーヤ（リ・ラーヤ）の第七惑星。リステラス系人類の居住惑星として典型的な大気と気象条件を持ち、やや大型だが自転が早く、低緯度地帯における引力はリステラス版図全体の平均値よりやや低め。大気層が厚く、恒星からの紫外線が地表の生物相に影響することはない。

リステラス文明の一方の源であるリスタルラーナ文明発祥の地であり、永く星間連盟リスタルラーナの首都としての機能を果たし、地球圏文明との統合により政府が移された後は、記念公園として人類居住以前の自然状態に戻され、学園惑星として統合芸術大学アール・ニィの管理下におかれた。

1. 先史文明

現存するリステラス系人類の居住以前に、複数のユヴァニサ（人類）及び生物相による、精神重視型文明の興亡史の存在した事が確認されているが、史跡の殆ど残らない文明型である為、詳細は明らかでない。

最終段階まで生き残った極少数の精神能力型人類のうち、数例が、後着移民である現存リステラス人類との混血を果たしたとの史録が残っているが、これもまた真偽を確認する手段は失われている。

古伝によれば彼らは世捨て人として両極付近の高緯度・高重力地帯に原始的な手段で居住し、ために民族の滅亡から免れえた生き残りであったという。

リステラス系移民史最初期のうちに、彼らのコロニーはすべて自然消滅をとげた。

2. 移民船...みおや（母霊）の贈り物...

リステラス星圏として構造的に統合されるはるか以前から、テラズ及びリスタルラーナ両人類は同根もしくは一方が一方の祖先であろうと推定されていたが、今日では、テラズの首都・地球と同恒星系内のいずれかの星に高度な先史文明が存在していたらしいとの説が一般的に承認されている。

後世、フェア・リスト・ティ・イ＝ラーヤ...母霊（女神）の贈り物...として伝承に語られた星船の存在は、リステラス内外の先史移民種に共通のものである。

星船フェアリスティラーヤ内部には二種の人類が同船していた。単性種イシールと、双性のナール（男・クナール、女＝イナール）である。航宙管理は華奢で色素の薄いイシールによって行なわれ、移民後の開拓要員である丈夫なナールとは居住区が分けられていた。

彼らが後にラーヤ（母）と名付ける恒星系に流浪のすえ到着した際、なんらかの故障により母船の軟着陸が不可能事となり、大部分が非常用カプセルでの無計画な降下を余儀なくされた。この時の退避は船内の居住区別に行なわれたと思われ、後に地表上、ラクシャ・インストラ...多島大海...での文化圏形成に大きな影響を与えている。

最後に星船自体はウェア・エムバ...大陸...中央部に落下。大破して地中に埋まった。

3. ウァ・エムバ（大陸）...ナール（人間）とイシール（単性種）...

[3. ウァ・エムバ（大陸）...ナール（人間）とイシール（単性種）... \(1990.11.22.\)](#)

2017年2月23日 [ヒロシマ+ナガサキ<フクシマ=【地球】!!](#)

3. ウァ・エムバ（大陸）...ナール（人間）とイシール（単性種）...

星船墜落の際、脱出しえず船内に残った者の殆どは死亡し、生存者は艦橋で操船を担当していた極わずかなイシール種のみであった。

高度な科学知識と独特な倫理観（※）を持つ彼らは船内の遺体を回収し使える機材を寄せ集め組み立てて、一定の基礎型区分にもとづく大量のナール種クローン体作成にとりかかった。

遺伝子の選択と教育プログラムによって、まず体格が良く感性は鈍い者が数万の遺体の葬送作業のために送り出され、次いで基礎的な科学的知識を与えられた軽敏な種が船内機材の回収と修理にとりかかった。

その間、イシール種は船外の惑星環境を探查し、ラクシャ・インストラへの脱出組とも幾度かの交信に成功したが、その時点で広い太洋をへだてての合流は不可能事と判断し、ウァ・エムバ墜落組のみでひとつの生存圏を確立すると決定。

これに従い、さらに数種類のナールが生産され、新たな教育プログラムに従って、探查、開拓、農耕、建築、等の職種にふり分けられた。

墜落した星船を中心に放射状の農地が広がり、環状の居住区が建設され、自然な生殖行為による子供の誕生も含めて人口が約一万を数えるようになった頃、この新生のコロニーには重篤な危機が訪れた。唯一の指導層であったイシール種の死滅である。

本来、ナール種の十倍に近い長命族であったイシール自身、この事態は想定しておらず、原因となったのはおそらく、わずか十数人でひとつの世界を築かせねばならないという使命感から来る精神的消耗、および慣れない惑星環境での外気に身をさらしての作業指揮であったとされている。

絶滅する寸前に彼らは彼ら自身のクローン体をも急造したが、高度すぎる知識と感性の故に十分な基礎教育を与える事はついに出来ず、彼らの養育は短命なナール種に

、千対一の人口比で託されることになった。

さて、ウェア・エムバのナール種の、これもぎりぎりになって作られ教育された新たな指導者グループに遺されていたものは、まだ童子の不安げなイシール達と、ごく大まかな開拓・開発計画、そして生産された時から適確な指示を受けて動くことをしか知らない、単純で善良な労働力としての一万にのぼる民衆だった。

十数人のイシール種の寿命をすり減らすほどの重責を、クローン培養槽の中で人工的な知育を施されただけで、成人としてこの世に送り出されたばかりの未熟なナール種100人足らずに引き受けきれぬ筈はなく、彼らは忙殺され、疲労困憊し、イシール児の再養育はおろか、機械的に生産され増え続ける労民たちの対応にすら手がまわりきらない有様だった。

従って十分な訓育を受けぬまま開拓作業に従事させられた者達のあいだではもめ事やサボタージュが急増し、計画はたちゆかなくなり、厄介事は全て持ち込んで来て、自分らでは何ひとつ解決する習慣を持たない労民層を、深刻に憎む指導者までが現われる事態となった。

指導層のうち一部の者が、他の承認は得ないままに、クローニングの生産ラインを停止した。人口の増加は3万足らず(*)で止まった。が、彼らには、一旦停止させたラインを再び軌道するだけの知識は施されていなかったのである...

ことの是非と今後への善後策をめぐって指導層は幾重にも分裂し、深刻に対立した。イシール児たちは深い感性を秘めた瞳でただ黙ってそれを見つめていたが、ある日、何人かがふいと姿を消し、長いあいだ戻って来なかった。

居残った数人の子供らは指導層から離れ、労民の居住区へ移って、それまで彼らが娯楽として、機械によって再生して与えられるものしか知らなかった物事を、目前で実演してみせた。肉声で、歌ったのである。

またある者はひとりひとりの似顔絵を描いてまわり、ある者は他愛もない自作の、身近な物語...彼らの預かり知らない"船"や、それ以前の世界での出来事でなく...を、自然出産により生まれた、この星はじめての幼児たちに、語って聞かせた。

全てを放棄して、ただ指導層の決着を待っていた労民たちは、ようやく自分達に出

来る事を見つけて働き始めた。赤ん坊たちとイシール達に、食べさせ、着させ、暖かく眠らせるために、それぞれに教えられた仕事に、進んで戻ったのである。

ただ、計画し始動する者はいなかったので、都市整備は変則的になり、農地はだらだらと外へ流れ出て行った。

やがて、イシールの子供の主だった者のとりなしにより、指導層中の多数派...亡きイシール達の遺志に従い、あくまでも秩序だった開拓・移民を行なうべきだと主張する者...が主導権を得、クローニングを停止させた少数派、イシール人種の理想論でなくナルの本性に任せた自然な発展を、と説く者たちは、星船を中心とした"聖域"から離れ、独自の生活圏を築くという結論に到達した。

この時、長く行方不明だった年長のイシール児達が戻って来て告げた。彼らは惑星探査の為に製造された一隊と行を共にしていたのだが、ここから十分に遠く離れて気候も異なる地帯に、困難を克服する気概のある者になら、適応可能な広い土地があると。

(この時、また、イシールのひとは先史文明人ユヴァンとの混血児を抱いていたという。)

指導層のうち20人足らずと10人近いイシール、そして労民のなかで自ら志願したものの700余名を連れて彼らは北方の山岳地方へと出立し、以後、"放"と呼ばれる辺境自由民の基となった。

一方、残った指導者達は自ら「ン・グス・アインスカ」...秩序を守る者...と名乗り、労民達の善導という職責に戻った。

労民達は彼らを歓迎した。道は真っ直ぐになり、畑や工場は合理的な生産計画に沿って運転された。

ただ、「身内のもめ事」の調停をと頼む労民層は、いつの間にかいなくなっていた。

(※ イシール種の基本性格には、聖職者・殉教者・敬虔な学者にして神をたたえる芸術家、といった色彩が濃い。地球およびダレムアスでは、後に"天使"と呼ばれるこ

とになる種族である。)

(* この時点でイシール児は30人前後。)

「自己犠牲」と「思索による行動」という概念。

<https://www.youtube.com/watch?v=4cwChalNCDC>

Sacral Nirvana - Oliver Shanti (2 hours)

4. 帝国...ン・グス・アインスカ... (秩序を守る者)。 (1990.11.28.)

4. 帝国...ン・グス・アインスカ... (秩序を守る者)。 (1990.11.28.)。

2017年2月23日 [リステラス星圏史略](#) (創作)

4. 帝国...ン・グス・アインスカ... (秩序を守る者)。

1990.11.28.

数代を経るうちに人口は5万を数え、"聖域"周辺に衛星状に街区が散らばった。指導層・労民ともに資質と職能は細分化され、関連の強い職業集団内での婚姻が大半を占めた。首長職はごく狭い血族内での世襲となり、どの層民も自分の所属する血統を知っていた。

イシール達は主に、得意とする芸術や学問に携わるか、あるいは指導民の補佐・参謀的な役割を果たすことが多かったが、自ら政治的地位につくことは決してしなかった。また一部の者は選んで工芸や建築の技能を学んだ。

イシール達の開いた高等学府からナール族初の学者が出た。彼(女)リエサンの編んだ『ウァ・エムバ(大陸)大全』は百科辞典であり字引きとなると同時に、その社会構造を解析し記載した一巻は、それまで確たる成文法を持たずに来た大陸民に大きな影響を与えた。

人々は自分の所属する職能・血縁集団が「何という名で図表のどこに」分類されているかを覚えたり、それを各々の誇りとしたのである。さらに数世代を経るうちに、当代の世相を記述した学術書は、守るべき社会の原理として歴代の尊崇を受ける、一種の法典へと昇華された。

これにより、大陸社会における身分制度が定着し、帝制国家としての第一歩を踏み出す事になる。

『ウァ・エムバ(大陸)大全』に記録される基本の十階層区分は以下の通りである。(リエサンの功績は図解にして色分けしたところにある。)

放(エゲラ)： "星船から離れた者"の子孫。遊牧及び放浪芸能。

王侯はドーン(王)。

素(ギオ)： 各層の代々の使用人として単純肉体労働。姓氏を持たない。

勞（アグ）： 農耕・牧畜及び戸外における肉体労働。約一万姓氏（血統）。

業（ライム）： 建築・工芸・土木始動・屋内手工業。約五千姓氏。

官（エラ）： 下層四民を束ねる。地方行政・現地司法官。約二千姓氏。

学（ウァイ）： 技術・学問・芸能及び行政補佐。イシール十家及び約一千姓氏。

司（ラシ）： 貴家の家政。警備及び巡察。伝達・交通整理。八百姓氏。

貴（ハッシュ）： 行政・司法。帝家血統を引く。百七姓氏。

聖（パエ）： 高等行政・立法・司法。帝家二～五親等の者。

神（ングス）： 最高位の三権を持つ。帝家一姓氏のみ。世襲。

ただしこの氏職制度にはかなりの流動性があり、婚姻・養子縁組、また本人の希望による移転はいつでも可能であった。また同一氏職集団内においても、人種・性・年齢・特性による分業や職能交代が普通であり、一子相伝的な技術知識の閉鎖性はなかった。

人口17万。星船遺跡を中心とする宮都および他の拠点都市7、各々の衛星市街3～5。

「今後の発展を見越して」ウァ・エムバ（大陸）全土に余裕を持って配置され、設計・建設された各都市間の距離は、しかし失敗であった。



（画像1⇒《ングスアインスカ》（秩序を守る者）＝《帝国》の模式図。

上下の▽△を重ねて横線を引き色分けしたものが、好んで記章に用いられた。）

(設定資料)

(設定資料)

【殺罰】 ...幻帝と献策士...

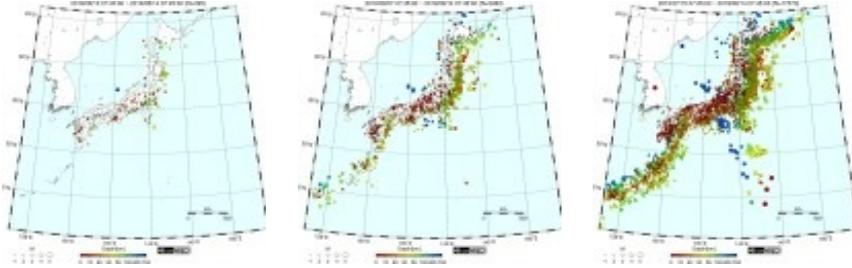
【殺罰】

...幻帝と献策士...

<https://85358.diarynote.jp/201908142321092431/>

『 苛怨呪の物語 』 (仮題) 第二夜 「 殺闕 の物語 」 (第一稿)

2019年8月14日 [リステラス星圏史略](#) (創作) [コメント](#) (4)



<https://85358.diarynote.jp/201908132350289874/>

の続き。

=====



地球式にいうと年の近い従姉妹 (いとこ) という説明になる遺伝子の三分の一ほどを共有している幼馴染でもあるマリア, ソレルが持病の定期治療のためしばらく浸かっていた睡眠槽から起き出す際に、担当医の義務として立ち会って声をかけたら、いつもの不機嫌そうな無表情をさらに無念そうで憂鬱そうな、落胆と嫌悪のひと睨みで返されたのには、いささか気分を害した。

本人いわく、「夢見がとても悪かった。」せい。...らしい。

いつもなら定期治療明けにはすぐさま数多 (あまた) いる助手たちに連絡をとりまくって大量の同時進行の仕事群を再開するのに、今回は、どうも、ぼんやりと虚空を見つめてばかりいて、...様子がおかしい。

しかし検査の結果、脳波もふくめて特に病的と言えるほどの異常は認められないと。

そこまで調べて、しかし言葉にできない違和感に首をかしげながらも、ちょうど副医長が当直の交代時間だとやってきたので、マリア、ディアンはやれやれと伸びをしながら自室に引き上げ、いまだに着なれない深宇宙探査船医長の堅苦しい制服を脱ぎ捨てた。

身体洗浄室で洗浄器に手早く全身と髪を洗わせながら経口栄養液の缶を飲みほして簡単に食餌と給水を済ませ、自身の健康状態の数値もざっと眺めて点検だけして中央機脳に送り保存する。

そのまま送風機でからだを乾かしながら壁の操作卓をちょいちょいと押して、立体合成機でいつもの寝間着をからだの周りに創出する。

ついでにこのままこの場所で眠れるようにすれば完璧なのにと、いつもの愚痴を呟きながらもさすがにしかたなく二本の足で歩いて就眠容器に転がり込んだ。

目覚まし機能に時間を指示して、ためいきひとつついて目を瞑る。

医療者である自分は夢など視たこともない。

忙し過ぎて。



夢を、観ていた。

いや、そんなはずはない。

自分は、夢など、今まで観たこともない。

そんな、はずは...

.....



衣服は黒と決めていた。

返り血が、一番めだたぬ色だから。

幼い頃には野良犬とさげすまれ。
憎いおとなたちを倒して斃して。

いつのまにか国主と呼ばれ、僭王と罵られ。
面罵した者らはことごとく磔刑にさらして、
軽侮した近隣の王らは次々に攻め滅ぼして。

部下たちからは慕われ、
敵将からは憎まれた。

夢は大陸の統一和平よと、
景気のよい看板を掲げて。

東に西に、縦横に、みじんも残さず攻め滅ぼした。



滅した部族にひととき優れた智将あり。
一族の皆殺しか、我に臣従しての命乞いかと選べと脅し。
やむなく屈する悔しげなその白面のさまが興味深くまた面憎く。

戦においては先陣を命じ、
退却においては後詰め捨て駒のごとくに扱い、
和睦においては残虐なる使者の役を押しつけ、

平時においては嫌がる顔を娯楽に、
伽を命じ、また将兵にも勦らせた。

しかし智将の叡智と働き凄まじく。

大陸の統一がなれば後はただ必ず和楽太平の世よと。
その言のみをひたすら信じて、幻影国の采配を撰る。

ついに大陸の南も落ち。
幻国にすでに敵はなく、
戦に苦しむ場所もなし。

智将高熱を発しやまいに倒れ、
重く故郷に伏す。

幻帝は怒り再三に出仕を命ず。



秋が過ぎて冬が過ぎて
幾度も死線をさまよい。
家人たちの寝ずの看病、
国人たちの納める貴薬、
やがて少しずつ病癒え、
春に花見の床上げの宴。

そこに幻帝まかりこす。

智将うろたえて弱々と立ち上がらんとす。
半年の病いえて今日ようやくに初外出の。
萎えた足でよろり立ち上がり拝跪の礼を。

その屈めた肩にむけ幻帝の剣が唐竹割に。

ざくりと。

病衣が斬れ肉が切れ血潮が飛び散って。
骨が断たれ肺が断たれ心の臓が断たれ。

「 ... な ぜ ... 」

ひとこと呟いて智将は絶命す。

幻帝叫ぶ。

「 なぜだと！？ なぜ、避（よ）けなかったのだッ？ 」

幻帝に。

仕えて仕えて四半世紀の青春の時のすべてを捧げて。
鬼と憎まれ非情と罵られても大陸の統一のためにと。
功なり、心労と自責に倒れ高熱と亡霊に魘（うな）されて。

今日は半年で初めての床上げの祝いでありましたと、
嗚咽しながら。

智将の股肱が帝を斬った。

大陸は、瓦解した。



「 ...は！ 」

目覚ましの音に、

ディアンは跳び起きた。

じぶんはだれだ。

だれだここはどこだ？！



コメント



[霧木里守≡畑楽希有（はたら句きあり）](#)

2019年8月14日23:22

ぶっつけ本番ジャスト小一時間ほどで、

第一稿を、書きなぐって本日終了！



[霧木里守≡畑楽希有（はたら句きあり）](#)

2019年8月14日23:24

霧木里守≡畑楽希有（はたら句きあり）

2019年8月14日23:23

まあ後味が悪かった人はこちらでも。

https://www.youtube.com/watch?v=-zImuW1_6Q&list=RD_-zImuW1_6Q&start_radio=1#t=8

POPPOYA (piano Version)



[霧木里守≡畑楽希有（はたら句きあり）](#)

2019年8月15日0:18

いやもちろん副官A君（船長セイ・ハヤミ）が
乗ってるのは知ってたけれども。

突如ちゃっかり副官Bさんこと
ヘレナ・ストール（@副医長！）乱入。

w(°□°)w

どーなる、アイフル？！



[霧木里守≡畑楽希有（はたら句きあり）](#)

2019年8月15日6:49

項目「リステラス」と直接関係ないですが、
入れ忘れていたので地震画像を追加w

(借景資料集)

リステラス星圏史略
古資料ファイル
6-1
《 ングサインスカ 》
～初期帝国の成立～

<http://p.booklog.jp/book/113317>

著者：霧樹里守 is 土岐真扉

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/masatotoki/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/113317>

電子書籍プラットフォーム：パプー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社トゥ・ディファクト